

# Tacrolimus for Remission Induction and Maintenance Therapy in Patients with Ulcerative Colitis: A Retrospective Evaluation Study

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 亜由美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032172">https://doi.org/10.20780/00032172</a>

## 主論文の要約

Tacrolimus for Remission Induction and Maintenance Therapy in Patients with Ulcerative Colitis: A Retrospective Evaluation Study

難治性潰瘍性大腸炎に対する Tacrolimus (TAC) の寛解維持効果に関する検討

東京女子医科大学消化器内科学教室

(指導: 徳重 克年教授) ㊞

伊藤 亜由美

Gastroenterology Research and Practice Volume 2016 (2016), Article

ID 5956316, 6 pages (平成 28 年 5 月 8 日発行) に掲載

【目的】 難治性潰瘍性大腸炎 (UC) の寛解導入として, 副腎皮質ステロイド (PSL)

が多く用いられてきたが, PSL への抵抗性, 依存性を生じ, 副作用や寛解導入後の

高い再燃が問題であった. 近年, UC に対し Tacrolimus (TAC) の有効性が報告さ

れており, UC に対する TAC の有用性, 寛解維持効果について検討した. 【対象およ

び方法】 検討 1) 難治性 UC に対し PSL で寛解導入した 55 例 (PSL 群) と TAC で寛

解導入 (TAC 投与期間; 基本 3 ヶ月投与) した 40 例 (TAC 群) でかつ 1 年以上経

過を観察できた症例を対象とした. 両群の臨床データ, 大腸内視鏡スコア

(Mayo, UCEIS, EAI), PSL の総量, 寛解導入後の PSL 離脱率, 再燃率を比較検討し

た. 検討 2) TAC の寛解維持効果の検討; 寛解導入後, 少量の TAC で長期投与し寛解

維持を行った 13 例 (TAC 群), アザチオプリン (AZA) のみで寛解維持を行った

13 例 (AZA 群), TAC と AZA の併用で寛解維持を行った 14 例 (TAC+AZA 群) に

ついて比較検討した。【結果】 1)罹患期間は PSL 群  $5.6 \pm 6.6$  年 / TAC 群  $8.7 \pm 1.3$  年 ( $P < 0.05$ ) で, TAC 群が長期であり治療前の臨床症状 CAI は PSL 群  $11.8 \pm 2.6$  /  $13.6 \pm 2.8$ , ( $P < 0.05$ ) と TAC 群が臨床症状は重症であった。Mayo スコアは PSL 群  $2.7 \pm 0.4$  / TAC 群  $3.0 \pm 0.0$  で, UCEIS は PSL 群  $3.4 \pm 1.9$  / TAC 群  $5.1 \pm 1.6$ , EAI スコアは, PSL 群  $12.3 \pm 2.3$  / TAC 群  $13.8 \pm 2.4$  と TAC 群が有意に重症であった ( $P < 0.05$ )。PSL 離脱率は, PSL 群 30% / TAC 群 67%であり TAC 群で有意に PSL を離脱可能であった ( $P < 0.05$ )。再燃率は, 500 日で, PSL 群 35% / TAC 群 40%, 1000 日で PSL 群 52% / TAC 群 45%, 1500 日で PSL 群 60% / TAC 群 46%で, TAC 群は有意に再燃をおさえていた ( $P < 0.05$ )。2) TAC 群, AZA 群, TAC+AZA 群では全ての検討項目で有意差を認めなかった。TAC の長期投与による寛解維持療法中に重篤な副作用は認めなかった。【考察】 PSL の頻回, 長期投与により PSL 抵抗性, 依存性 UC になる前に TAC による寛解導入が望ましいと考える。AZA が使用できない症例においては TAC による寛解導入, 寛解維持が可能であった。【結論】 TAC による寛解導入例では重症例でも PSL 離脱, 再燃率が良好な結果であった。UC に対して, TAC は寛解導入および寛解維持療法としての有用性が期待でき, 難治性 UC に対する治療の選択肢の 1 つになる可能性が示唆された。